

資料 1

令和4年度重点フォローアップ事業への支援・助言等について

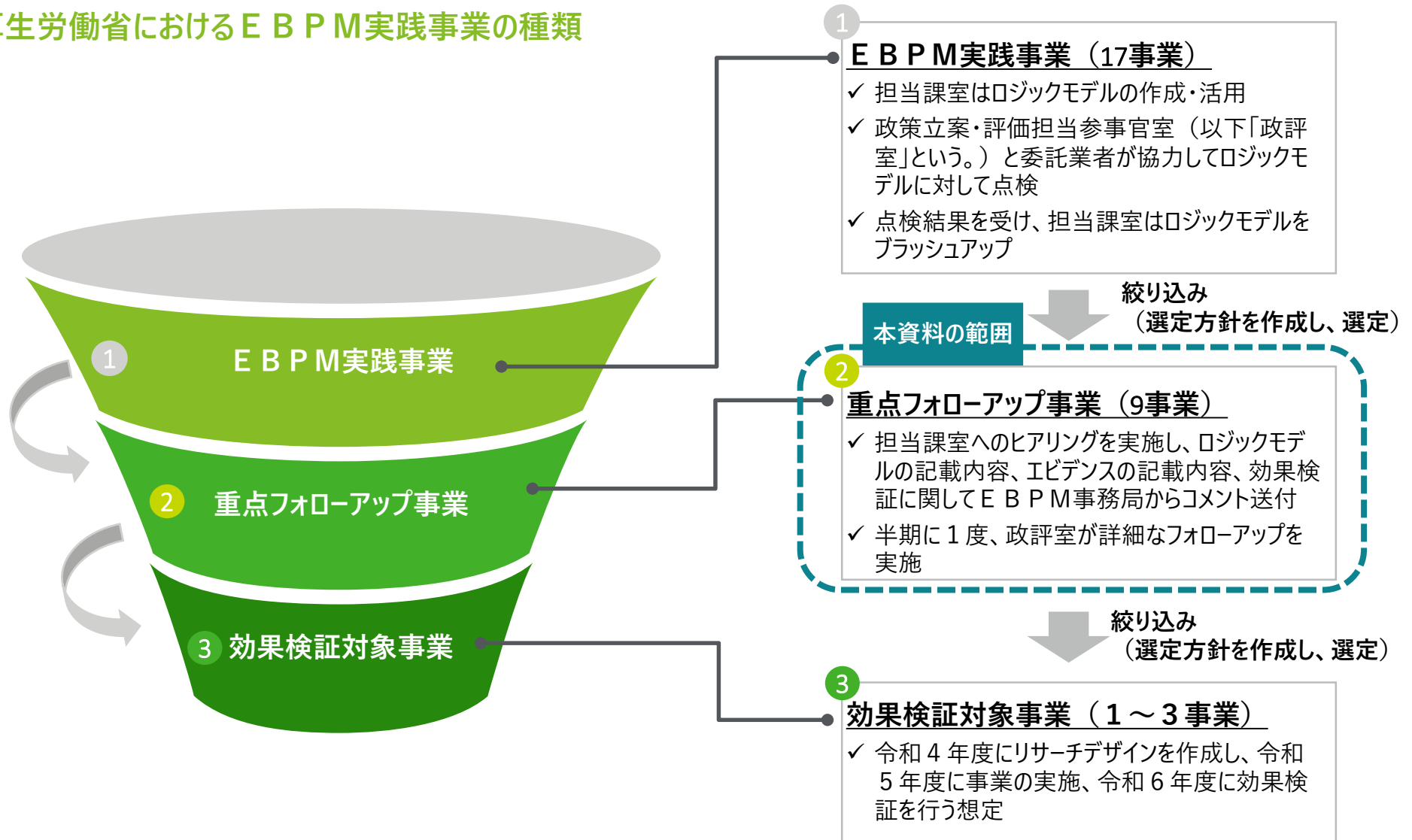
2022年12月7日

目次

1. 厚生労働省におけるE B P M実践事業の種類	p.3
<hr/>	
1. 令和4年度重点フォローアップ事業への支援・助言等の流れ	p.4
<hr/>	
2. 令和4年度重点フォローアップ事業の一覧	p.5
<hr/>	
3. 重点フォローアップ事業に対する事務局コメントの項目概要	p.6
<hr/>	
4. 重点フォローアップ事業に対する事務局コメント作成 の中で得られた主な気づき	p.7
<hr/>	

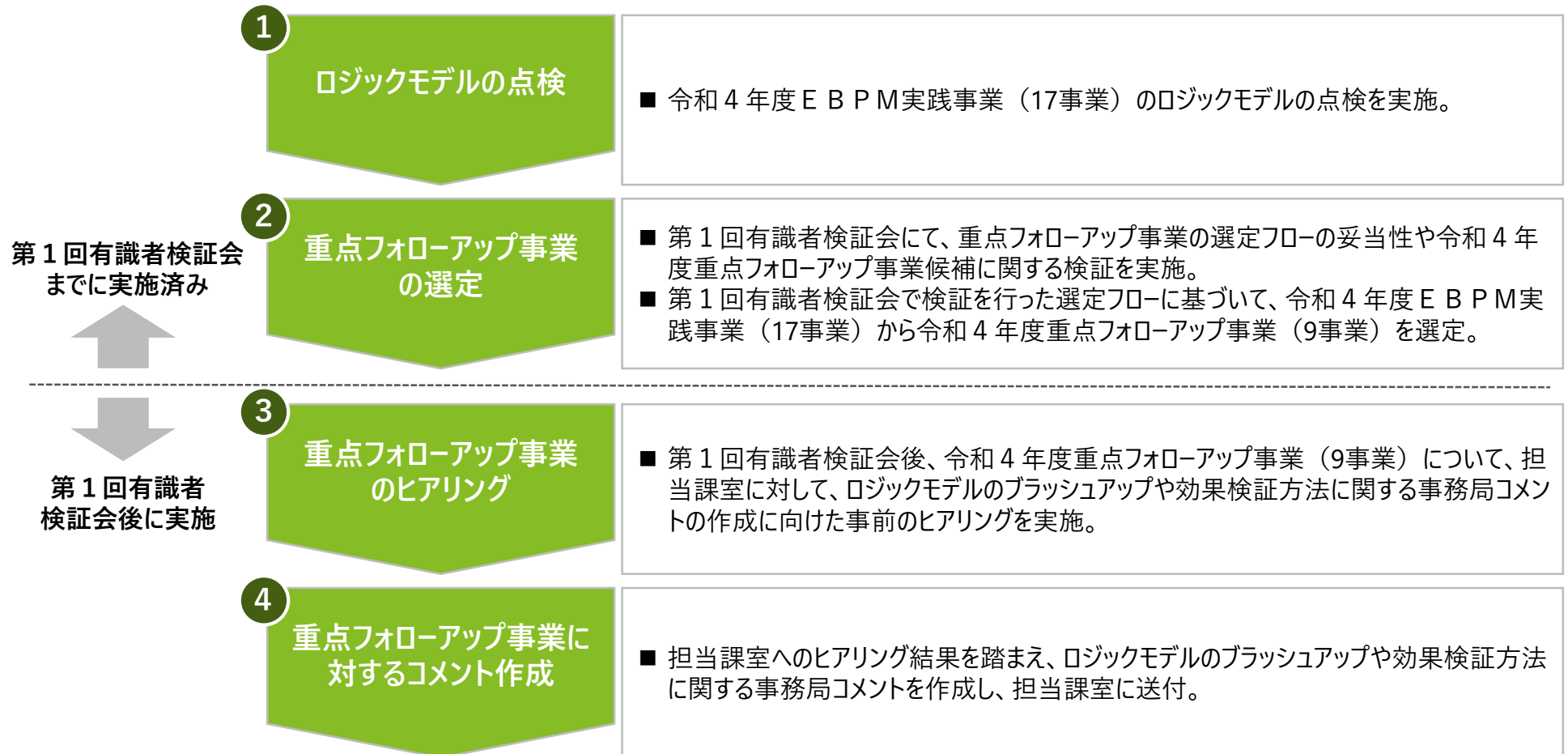
厚生労働省におけるE B P M実践事業のうち、重点フォローアップ事業について支援・助言等を行った

厚生労働省におけるE B P M実践事業の種類



重点フォローアップ事業は、第1回有識者検証会後に担当課室へのヒアリングを行い、ロジックモデルのブラッシュアップや効果検証方法に関する事務局コメントを作成した

重点フォローアップ事業への支援・助言等の流れ



第1回有識者検証会の検証結果を踏まえ、9事業の重点フォローアップ事業が選定された

令和4年度重点フォローアップ事業の一覧

部局	担当課室	事業名
健康局	がん・疾病対策課	免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業
医薬・生活衛生局	監視指導・麻薬対策課	麻薬等対策推進費（広報経費）
医薬・生活衛生局	食品基準審査課	健康食品の安全性の確保等事業
労働基準局	賃金課	最低賃金引上げに向けた中小企業・小規模事業者支援事業
子ども家庭局	家庭福祉課母子家庭等自立支援室	D V・女性保護対策等支援事業（仮称）
社会・援護局	地域福祉課生活困窮者自立支援室	就労体験・訓練先の開拓・マッチング事業
障害保健福祉部	障害福祉課	地域の連携による就労アセスメント支援の実践に関するモデル事業
保険局	医療介護連携政策課医療費適正化対策推進室	特定健康診査・保健指導に必要な経費
人材開発統括官	若年者・キャリア形成支援担当参事官室	新卒者等に対する支援

事務局コメントでは、5つの項目でロジックモデルのブラッシュアップや効果検証方法に対するコメント・提案を行った

重点フォローアップ事業に対する事務局コメントの項目概要

#	項目	対応箇所	内容
1	現状分析・課題・事業概要の記載	■ 現状分析・課題・事業概要のパート（ロジックモデル1枚目上部）と対応	■ 事業内容とロジックモデル様式への記載内容の整合性を重視してコメント
2	ロジックモデルの記載	■ ロジックモデルの本体のパート（インプット・アクティビティ・アウトプット・短期アウトカム・長期アウトカム・インパクト）（一枚目下部）及びロジックモデル2枚目「ロジックの確認①」と対応	■ 事業内容とロジックモデル様式への記載内容の整合性を重視してコメント ■ 必要に応じてアウトカムの再設定を提案
3	アクティビティの妥当性	■ ロジックモデル2枚目「ロジックの確認②」と対応	■ アクティビティの妥当性を補強するエビデンスの追加についてコメント
4	アクティビティ、アウトプット、アウトカムのデータ取得方法	■ ロジックモデル3枚目【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】の「設定した指標を算出する調査名等」と一部対応 ■ 本項目について、ロジックモデルの様式には詳細を記入する欄はないが、将来の効果検証方法を考える上で提案が必要な事項と考え、コメントを作成	■ アクティビティ、アウトプット、アウトカムのデータの取得方法について、事業設計時に必要な工夫にも言及しつつコメント・提案
5	効果検証方法	■ ロジックモデル2枚目「効果検証方法」と対応	■ 検証仮説（リサーチクエスション）・分析に使用するデータ・分析手法についてコメント・提案

全体的に各項目において、一定の水準を満たした記載になっているが、多くの事業において、効果検証の実施を見据えた場合に、より良い改善案を提案できる余地があった

重点フォローアップ事業に対する事務局コメント作成の中で得られた主な気づき

項目	事務局コメント作成の中で得られた主な気づき
1. 現状分析・課題・事業概要の記載 2. ロジックモデルの記載	<ul style="list-style-type: none">■ 令和4年6月～7月のロジックモデルの点検時に修正を求めた項目については修正が進んでおり、現状分析からインパクトまでの各項目が一定の水準を満たした記載となっており、論理的整合性が取れている事業がほとんどであった。■ 一部の事業で、事業のアクティビティをロジックモデルにおいて適切に記載できていないケースがあった。<ul style="list-style-type: none">・ ヒアリングで聞き取った事業内容とロジックモデルに記載されている事業内容に差異があった。・ アクティビティとアウトプットの対応関係が明示されていないケースがあった。
3. アクティビティの妥当性	<ul style="list-style-type: none">■ 課題解決手段としてのアクティビティの妥当性（因果関係）を示す（狭義の）エビデンスを示しているものはほとんど見られなかった。<ul style="list-style-type: none">・ 一部の事業で、類似事例として、先行研究を追加的に提案できるケースがあった。
4. アクティビティ、アウトプット、アウトカムのデータ取得方法 5. 効果検証方法	<ul style="list-style-type: none">■ 令和4年6月～7月のロジックモデルの点検時に修正を求めた項目については修正が進んでおり、記載内容は一定の水準に達している事業がほとんどであった。■ 一方で、一部の事業では事前データの取得が困難なケースがあった。<ul style="list-style-type: none">・ 新たに設定するアウトカムのため、事前データの取得が困難なケースがあった。■ また、多くの事業で、効果検証の実施を見据えた場合に、より良い改善案を提案できる余地があった。<ul style="list-style-type: none">・ 既存の調査や既存システムのデータ（個票データ等）を活用して、アウトカムのデータ取得や対照群の設定を提案できるケースがあった。・ 処置群の中で、対照群の設定を提案できるケースがあった。・ より精緻な因果検証を行うための制御変数に関する情報の取得を提案できるケースがあった。